

中央林間病院
リポート②

気になる空咳、もしかして

男性の死亡率第1位 『肺がん』について

大和市で地域に寄り添った医療を提供している中央林間病院（中央林間4の14の18、社会医療法人三栄会）では、日本人の死因の大部分を占める「がん」の治療に尽力しており、市民にがん検診の重要性を訴えている。今回は呼吸器内科の大林王司医師に肺がんについて話を聞いた。

肺がんの危険因子は様々

肺がんはがんの中でも最も発生頻度が高く、日本で

は男女ともに第1位。喫煙が主な原因とされるが、加齢、家族歴なども危険因子である。血痰や空咳が続く、呼吸困難な状態はサインであり、症状が出た頃にはがんが進行してしまっている場合も。

非喫煙者も要注意

ほかのがんと同じく、完全な予防はできないが、罹患は喫煙者かそうでないかで大きく差が出ている。ただ「大気汚染やアスベスト



大林 王司 医師

社会医療法人三栄会
中央林間病院 呼吸器内科
日本呼吸器学会専門医・指導医

吸入なども危険因子です。煙草はもちろんよくないが、誰でもなりえるということ覚えておいた方が良いでしょう」と大林医師。また「大腸がんや乳がんなどほかのがんの転移として見つかることも多い。また、肺炎腫や肺結核などほかの疾病から合併することもある。」

定期的ながん検診を

「早期発見、早期治療のために症状が出ないうちの検診が重要です」と大林医師は話す。まずはがん検診の受診。さらに定期的な受診を習慣づけることが大切であり、より詳しい検査を希望する場合は、同院では最新のCTを使用した検査をすることも可能だ。